

カレッジ通信

編集・発行

東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎！Tel 03
(5950)
1771第28期実習棟 上棟！
一致団結し遅れを挽回

建築の儀式的意味も解説、模擬上棟式を行いました

実習棟実習は東京建築カレッジの1年次実技実習の集大成的な授業です。今年度の1年生（第28期生）による実習棟の上棟が1月26日・27日に、江東実習場で行われました。例年に比べて作業の進度が遅かったため、間に合うか、先生方から不安視されていました。危険感をクラス全体で共有し、集中して追い込み作業を行い、当初の予定通りの上棟ができました。

自分たちで墨付けし、手刻みで伝統構法を取り入れた木造軸組み構造の建物をつくる体験は貴重です。現在の戸建て住宅新築はプレカット材の組み立てがほとんどであり、分業化も進んでいるため、総合的な建築施工の体験がなかなかできません。こうした状況から東京建築カレッジの体験型授業は教育熱心な事業所から歓迎されています。

実習棟実習は上棟後も続きます。2月1日には自分たちで建てた実習棟で「構造実験」授業を行います。木造軸組みの家の粘り強さや弱点を数値と目視で確認します。油圧シリンダーで建物に力をかけて、大黒柱と筋交いの構造上の意義を学びます。

本校には2年次の1～2月に修了（卒業）試験の位置付けの試験があります。「技能照査試験」です。「実技」と「学科」で構成し、実技試験は「化粧棒隅木（けしょうぼうすみぎ）」（寄棟屋根の角の構造）が課題です。

原寸図、墨付け、加工、組み立ての各段階の出来栄を厳正に審査します。今年度は1月20日・21日に行われました。学科試験は2月17日です。実技と学科の両方に合格すれば、「建築大工技能士補」が授与されます。

池袋校舎1階ロビーで完成品を展示しています。学習の努力と成果をぜひご確認ください。



（2月2日は2年生が貫と落とし板の構造上の意義を学びます）

この後、実習棟

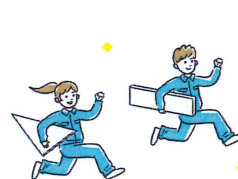
実習は、垂木・鼻隠、野地板・下葺（したぶき）、間柱・筋交い、窓・内法（うちのり）、廻り階段製作と、続きます。足場やフルハーネスの特別教育、丸のこ作業従事者安全教育など法定教育を全員受講し、安全第一で授業を進めています。



上棟当日は4月入学予定者が見学来校しました。「実習棟の規模が予想よりも大きくてびっくりしました」と入学予定者。一方、第28期生の研修派遣事業主の見学もありました。「ハウスメーカー勤務時代に上棟の現場はたくさん立ち合ってきたが、手刻みでこれだけのものを先生の指導を受けながら新人たちが建てるのはすごい。貴重な経験をさせてもらっている」と話していました。

第29期生募集 最終入学選考会
2月21日（水）@池袋校舎

入学願書等の応募書類提出締め切りは、2月16日（金）です。応募対象者の情報をお寄せください。東京建築カレッジ研修派遣を保障する就職先の紹介も行います。ご相談はお気軽に！



「想像より規模が大きかった」
見学の入学予定者

JOINERY

Traditional Japanese Carpentry Workshop

大工に教わる伝統ワークショップ

This workshop is in Japanese. Please let us know by email if you require English language explanations.

年齢・性別・職業に関わらず
どなたでもご参加いただけます。

初心者の方も大歓迎
日本の伝統技術を学ぼう！

伝統技術
蟻仕口

2024年
2月4日(日) Feb 4th 9:45~15:30 | **FREE 無料** | 定員あり

お申し込み方法
締切：2月2日(金)18:00(ワークショップ定員に限り、定員・参加希望もご申し込みください)。
「ワークショップ参加希望」と明記して、氏名とご連絡先を東京建築カレッジのホームページの連絡フォームか、メールまたはFAXでご連絡ください。見学のみの受付です。

お申し込み方法
E-mail info@doken-college.ac.jp
TEL/FAX 03-5950-1771

開催場所 東京建築カレッジ江東実習場
〒136-0073 東京都江東区北砂 1-15-12
新大塚下駅南口「西大島駅 44 出口」から徒歩 20 分
都バス(都バス) 有明駅 - 門前仲町駅「北砂 2 丁目」下車 徒歩 7 分
都バス(都バス) 有明駅 - 門前仲町駅「北砂 2 丁目」下車 徒歩 7 分

2023年度第4回臨時オープンキャンパス
主催 職業能力開発短期大学校 東京建築カレッジ

若手人材獲得競争の激化の下、かつてなくカレッジ生募集は苦戦しています。そこで、2月4日(日)、臨時にオープンキャンパスを開催することにしました。

宣伝期間は約2週間でしたが、大工実技実習担当の教務運営委員 山田幸延さん(大工)の奮闘で実現した「蟻仕口づくり」が大人気。申込開始1週間経たないうちに定員(20人)

本校母体の東京土

臨時オープンキャンパス(2月4日) 「蟻仕口づくり」体験が大人気

建 府中国立支部からは同支部所属の組合員さんの娘さんが参加の意向という情報が入っています。

「この企画は魅力的だ」と宣伝を頑張っています。江東区出身の第5期生(設計職)の女性は江東区内在住で大工志望の中学生を参加させる予定。

「功労者・技能者を囲むつどい」(1月28日) 技術・技能の学習と継承の大切さを交流

本校を設置・運営する職業訓練法人東京土建技術研修センター(渡辺義久理事長)は1月28日(日)、池袋校舎で「功労者・技能者を囲むつどい」を開催しました。約30人が参加しました。

認定職業訓練の功労者表彰で東京都知事から感謝状が贈られた金田正夫講師、佐藤里志講師、関昌彦講師(教務運営委員)、同じく 東京都産業労働局長から感謝状が贈られた大河原章吉講師(飯能・秩父

研修担当)、大河原伸介講師(同)、井上淳治講師(林業研修担当)が紹介されました。金田講師は「気候危機を回避するためにも『町場』建築従事者が頑張る必要がある。強みは手わざ。技術技能の継承に力を入れよう」と熱く呼びかけました。

技能五輪や青年技能競技大会の出場選手の指導を担当する片岡茂樹2年生実技実習指導員責任者(教務運営委員)、「四方転び踏み台入門講座」担当講師の林陽一さん、「技能グランプリ」(大工職種)出場選手の高田慎太郎さん(第21期生)も参加し、大工技能向上の取り組みの意義を強調しました。



写真左：金田正夫さん、中央：片岡茂樹さん、右：高田慎太郎さん